

校の場合、重点目標の設定は部中心の傾向が強い。「従来のをあげた」が中学校で14%、高等学校で9%、「企画委員会を設け、作成した」が中学校11%、高等学校10%、全教師の参加による組織体制によって作成した」が中学校14%、高等学校10%となっている。全員参加の協力体制をとるには、手間と時間がかかるが、全員の共通理解を図ることが大切であろう。他の機会に実施したアンケート中における生徒指導上の問題点の中に「生徒指導関係の仕事には生徒指導部の教師のみがたずさわり、その内容を他の教師は知らない」という声があった。生徒指導には、目標、重点設定だけでなく、一人一人の教師の意見を聞く機会や方法を工夫しながら、全教師の共通理解をはかり組織体制づくりをする必要があろう。

表3：生徒指導重点目標の作成手続き 中N=85,100% 高N=64,100%

調査項目	中	高
ア. 従来のをそのまま	14	9
イ. 生徒指導部が中心になって作成し職員会を経て	59	71
ウ. 企画委員会等が作成し、職員会を経て	11	10
エ. 全教師の参加による組織体制によって	14	10
オ. その他	2	0

③ 生徒指導全体計画作成に対する認識

realityに生徒指導全体計画が作成されているのは、後述のとおり、中学校は大部分作成しているが、高等学校ではほとんど作成されていない。すべてにわたって調査したのではないので、正確な判断はできないが、これが大体の傾向であろう。この現状に対して、教師はどう認識しているであろうか。ただ、ここでことわっておくが、全体計画作成調査校とアンケートの回答を寄せた教師は別の学校の教師である。全体計画作成調査校は、中・高各20校であり、アンケートの対象は中学校85名、高等学校64名のものである。

表4によると、「全体計画が作成されているか」の質問に中学校教師の82%は「作成している」と答えており、「作成されていない、わか

らない」と答えているのが18%になる。中学校では、ほとんど作成されているので、この20%近い教師に対する意識を高めていく必要がある。そのためには、全体計画作成の手続きの段階で全員参加の体制をとる必要がある。

問題は、高等学校の教師の場合である。前述のように、現実にはほとんどの高等学校で全体計画が作成されていないのに、84%が「全体計画は作成されている」と答えている。これは、生徒指導年間計画を生徒指導全体計画と誤認した結果である。このように、高等学校については、これに対する啓蒙が急がれるゆえんである。

表4：全体計画作成状況 (中学校) N=85

調査項目	%
ア. 全体計画が作成されている	82
イ. 全体計画が作成されていない	14
ウ. わからない	4

④ 生徒指導全体計画作成の手続き

「生徒指導部が中心になって作成している」が64%、「企画委員会等が作成している」が8%、「全教師参加による組織体制によって作成している」が13%となっている。全体計画の作成については、このような認知をしているのである。この際、全員で取り組む生徒指導の視点から、生徒指導部中心で企画・運営しているという印象をなくしていくことが必要であろう。

表5：全体計画作成の手続き (中学校) N=85

調査項目	%
ア. 従来のをそのまま	9
イ. 生徒指導部が中心になって作成し、職員会を経て	64
ウ. 企画委員会等が作成し、職員会を経て	8
エ. 全教師の参加による組織体制によって	13
オ. 部分的改善を図った	6

⑤ 生徒指導全体計画の活用

計画は、最終的にはそれをどう生かしているかが大切である。いかに立派な計画でも、計画を作成しただけでは意味がない。アンケートの結果は「よく理解し、指導に生かしている」と